
いつかの貴方にさようなら

Syurutu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかの貴方にさようなら

【Nコード】

N3744I

【作者名】

Syurutu

【あらすじ】

青年は銃を手に愛しい人の前に立つ。その瞳は何を映し、何を思っているのか・・・

(前書き)

ヤンデレが嫌い、苦手という方は閲覧をご遠慮ください。むしろストーリーカー？

右手にずしりとのし掛かる重く冷たい感触を確かめつつ私は君を眺める。

夜の帳が落ち、完全な静寂と闇に包まれた世界に私と君は二人きり。

脱力し座り込む君は何処かへ出かけるつもりだったんだろうね、昔私を送った黒いカクテルドレス、とても似合っているよ。

長い睫毛に縁取られた蠱惑的な瞳は恐怖に揺れて、一杯に涙を貯めている。

艶やかな光を放つ薄くグロスが引かれた肉感的な唇も、また恐怖に震えている。かつては私に愛を囁いてくれた面影は何処にもない。

きめ細やかな白磁の肌は泥と血に汚れ、絹糸の様な黒髪はぼさぼさで荒れ放題。普段から丁寧に櫛で梳かし椿油で手入れされていたそれには最早美しい輝きは何処にもない。

ああ、ここまで汚れてしまっているというのに彼女はなんと美しいのだろうか。精緻な造形の彫像の様な美貌は私を含めて一体幾人もの男、いや、下手をすれば女達をも魅了してきたのだろう、きつとそれは計り知れない程であろう。

それが今や私一人だけの物、それももう少しすれば永遠の物になる。

そう考えると憎くて堪らなかつた裏切りさえも愛おしく思える。

永遠の愛を誓つた唇から吐き出された裏切りと侮蔑の言葉。私の頬を優しく愛撫した手によって突き刺されたナイフ。艶めかしく何度も目を釘付けにされた脚から放たれた蹴り。一円さえも残つて居なかつた貯金通帳の額面。手酷く破壊され、跡形も無くなつてしまつた大切な母の遺品のカメラ。

彼女の全てが愛おしくて堪らない。この気持ちをどうすればいいのだろうか。

そつだ、こんなにも溢れそつなのだから溢れさせてしまえば良いじゃないか。誰に憚る必要なんてありはしないのだから。

「愛しているよ、心からね」

ゆつたりと右手を持ち上げ彼女に差し伸べる、正確には右手に握つている物を突きだしているだけなのだが気分的に美しいお姫様をダンスに誘つているようだ。よく君は私の仕草や台詞は芝居がかつていると言つて笑つていたね。

恐怖の色合いを濃くした彼女の顔を見つめると不意に笑顔が零れて落ちた。とても良い気分だ、かつて無いほど良い気分だよ私は。

彼女が唇を開きかけるより幾分か速く私は人差し指を握り込んだ。

薄暗い路地に響き渡る炸裂音、コンクリートを落ちた空薬莖が叩く甲高い金属音。

彼女の額に咲いた一輪の紅い華。

これで君は永遠に私だけの物。私の愛も永遠の物。そして私たちの世界も永遠になった。

心の奥底から生み出される哄笑を堪え、微笑程度に抑える。こんな時間に叫んでは近所迷惑だからね。

細心の注意と出来る限りの優しさをもって、力の抜けた彼女を抱きかかえる。勿論お姫様に相応しい抱き方といえばお姫様だっこ以外あり得ない、君の肌はなんて柔らかく魅惑的なんだろうか、許されるものなら顔を埋めてしまいたくなる。

いけない、いけない。私とした事が、なんとはしたないことを。

愛、愛、愛。心を埋め尽くす甘美な愛。私の心には彼女への愛と恋慕しか存在していない。それ以外に何が必要なのだろうか？

かつて抱いた強い憎悪の感情は何処にも無い。一時とはいえそんな無粋な思いを抱いてしまった私は多分最も愚かしい生き物だったんだろうね、今は天にも昇る気持ちだけどその点に至っては変わらないのだろう。まあ私は君の為なら何処までも愚かになってみせるけれどね。

行こうか、永遠の世界に、誰にも邪魔されない永遠の世界に。私……いや、僕と君だけの世界に。

愛しているよ、心からね。

(後書き)

一応恋愛のジャンルに指定しましたが、正直なんだこりゃな内容。筆者にもよく分かりません。ただスクールデイズをプレイして、「ヤンデレってよくね?」みたいな事考えてた時に書きました。本当に何考えてたのやら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3744i/>

いつかの貴方にさようなら

2011年1月13日14時07分発行